

# 令和3年度 学校評価表

品川区立台場小学校

校長

中嶋 英雄

台場小学校校区教育協働委員会

委員長

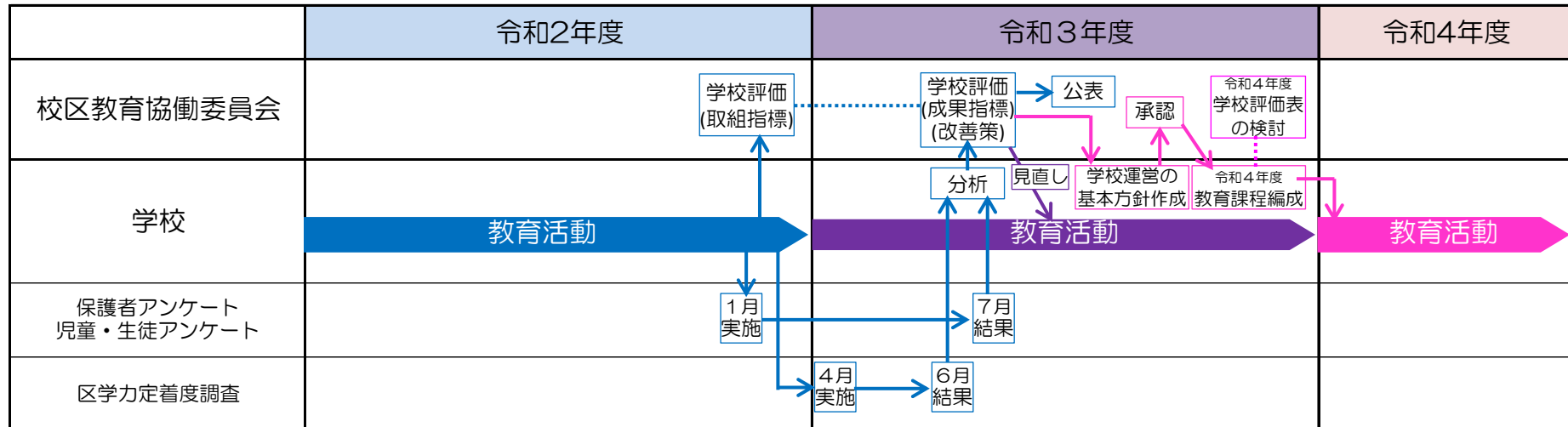
酒井 朗

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 平成31年3月28日教育長決定要綱第8号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

**学校評価の流れ**（※令和2年度の学校評価が令和3年度および令和4年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和3年度 学校評価 品川区立台場小学校

評価項目 1 学力に関すること

| 重点目標 |  | ○各教科の学習内容で、基礎基本となる知識や技能の定着を図る。<br>○自ら学ぼうとする意欲、学習態度を大切にして、子どもたちの学習に取り組む姿勢を全校体制で構築していく。<br>○教師の指導力を向上させる。   |    |   |
|------|--|---|----|---|
| 評価指標 | 最上段: 成果指標  | 最上段: 成果指標の達成状況の説明   | 評価 | 今後の課題と改善策   |
|      | 2段目以降: 取組指標  | 2段目以降: 取組指標の達成状況の説明   |    |   |
| ①    | 区学力定着度調査では、全学年各教科の目標値を90%以上、上回るようにする。  | 四つの学年が全教科、目標値を達成することができた。本校での6年間の教育を通して必要な学力を身に付けさせられている。また、個々の児童の実態を把握し、取り組んでいる。   | B  | ・とくに、国語および社会に課題が見られる。そこで、朝帯の時間を有効に活用していく。<br>・個に応じた学習の機会として、学校支援地域本部による3年対象のかもめ塾の他に、令和4年の夏季休業中に5・6年理科チャレンジ教室を開設した。それらの成果については引き続き検証していく。  |
|      | ・個に対応した指導を行うために、算数少人数指導や放課後の個別学習を充実させる。特に放課後に関しては、学年毎に「個別学習の時間」の曜日を決めて取り組む。また、朝帯、昼帯も活用し、副担任もT・Tとしての指導や教材作成にあたり、繰り返しの学習を行う。 | 朝帯や昼帯は実態に応じて、指導に取り組んでいると考える。朝帯、昼帯については、副担任は入ることは現状できていないが、できる範囲で、繰り返しのドリル学習等に地道に取り組んでいる。<br>・個人差が大きく、支援を必要としている児童に適切な支援が行えない時が多々ある。   | B  |   |
| ②    | 各学年、「好きな教科や授業がある」と回答する児童をクラスの90%以上とする。   | ・ほぼすべての学級で、90%の児童が「好きな教科や授業がある」と回答している。   | B  | ・保護者と連携・協力しながらすすめる中、離席してしまう児童が目立たなくなってきた。一方、全児童が授業に集中して取り組んでいるとは言い難い。そこで、指導方法(指示・発問の明確化など)や問題解決学習など、児童の興味関心を高められるような授業の工夫について、全教員で研鑽を深めていく。   |
|      | ・「話を聞く」「授業の始めと終わりのあいさつ」「鉛筆の持ち方」「鉛筆を削る」等、学習指導基準(台場スタンダード)を徹底する。   | ・学習規律を守れている児童がいる一方で、まだ離席や学習に集中できていない児童がいる。話を聞く態度、姿勢についてはほぼ毎日指導する時間があり、まだ定着しているとは言えない。<br>・台場スタンダードは理解しているが、守れている、守れていない児童の差が激しい。  | B  |   |
|      | ・各教科、領域を通して、問題解決学習(課題把握、予想、自力解決、話し合い、まとめ、習熟・活用)の学習展開を実施し、(台場授業メソッド)書いたり説明したりする思考力や表現力を育てる。                                 | ・授業の展開では、問題解決型を目指して取り組んできた。しかし、説明する力がついている児童は少なく、まだまだ指導が必要だと考える。  | B  |   |
| ③    | 教師の指導力を向上させる。  | ・教員一人一人の意欲、努力から生み出された工夫や成果をあげた取組内容を、今後、互いに共有し合いながら、子どもたちのために生かしていくとよい。  | B  | ・学習のねらいにそって指導した後、振り返りを行い、児童一人一人が分かったことや考えたことを確認することにより、児童個々の評価や、教師自らの授業の評価を行い、授業の改善に生かしていく。<br>・ICTを授業に活用していくよさを実感できたので、その具体的な活用方法を全教員が習得する。<br>・個別最適化の学習指導をすすめるうえでタブレット端末の活用をより有効なものにしていく。 |
|      | ・学習のねらいを児童に提示して、理解させている。   | ・導入で、授業のねらいを提示するとともに、ねらいに基づいて、授業のまとめをすることができた。<br>・つねにねらいを意識し、授業の展開を行った。児童が脱線しそうときには、めあてを確認して話題を戻している。  | B  |   |
|      | ・具体物を提示したり、ICT機器を利用したりなどの授業の工夫をしている。   | ・ICTを有効的に活用した授業実践をしている。授業の中でタブレット端末のロイロノート等を活用しながら工夫して行うことができた。タブレット端末やデジタル教材等を活用することで、児童にとって、学習意欲が高まったとともに、学習内容の理解の向上につながっている。また、本校はPC・書画カメラ・タブレット端末と種類が多く、使いやすいように思う。<br>・タブレット端末を活用して、学習意欲を高められるようにした。 | A  |   |

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目2 人間性や社会性に関すること

| 重点目標 |  | ○各教科、市民科での授業を中心に、日常生活や学校行事、保幼小交流活動の中で、人権尊重教育を通して自他共に大切に、相互に認め合える態度や能力を育て、支持的風土を構築する。<br>○家庭、地域、保育園・幼稚園、連携中学校と連携し、規範意識の醸成と基本的な生活習慣の定着のために、重点化した取組を推進する。   |    |  |
|------|--|--|----|--|
| 評価指標 | 最上段：成果指標   | 最上段：成果指標の達成状況の説明   | 評価 | 今後の課題と改善策  |
|      | 2段目以降：取組指標   | 2段目以降：取組指標の達成状況の説明   |    |  |
| ①    | 学習規律・生活規律を守ることを、全児童の90%が意識して学校生活を送る。   | ・2年生以上の調査で、二つの学年が達した。  | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・週目標では、今身に付けさせるべき適切な取組内容が計画的に設定されている。児童と大人がその必要性を理解し、身に付けられるまで繰り返し取り組んでいく。それには市民科での学習も有効である。</li> <li>・教職員自身も指導内容等を正しく理解し、全校で共通実践していくことが求められる。職員連絡会・学年会を有効に活用し、相互に確認し合いながら取り組んでいく。</li> <li>・家庭と連携することにより大きな効果が得られる場合もある。学校や家庭での様子を共有し合いながら適切な指導を共に検討し取り組んでいく。</li> </ul> |
|      | ・週的生活目標に加え、学級ごとに週目標を設定し繰り返し評価しながら、「校帽、あいさつ、まもるっち」の徹底、「正しい廊下歩行」、「時と場に応じた言葉遣い」「時間を守る」「係活動や清掃活動」等に取り組む児童の育成を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を意識して生活しようとする児童が多い。週目標をクラスでも毎朝確認することで、意識して過ごすことができた。</li> <li>・目標やルールは理解できているが、行動が伴っていない児童も見られた。</li> <li>・継続して指導をしていく必要がある。</li> </ul>                                  | B  |  |
| ②    | 人権にかかわる知識や態度を身に付け、自己を大切にするとともに、友達や、異学年・園児に対して、優しく接している。  | 学年が上がるほど、思いやりをもって人に優しく接する態度が育っていて、学校内外の取組で発揮されている。   | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初、各教科・市民科における人権教育指導計画を全学年が精選することができた。有効な資料をぜひ活用し、取り組みながら加除修正を図りながら次年度に引き継いでいく。</li> <li>・令和3年度実施できなかった異学年交流については、令和4年度実施を再開している。今後、これらの取組については、計画の段階から記録に残し、学校支援地域本部の学校支援ボランティアを有効に活用できるよう検討を図っていく。教職員は変わっても本校の大切な教育活動の一つとして存続させていく。</li> </ul>                       |
|      | ・各教科、市民科において、人権教育指導計画を精選しながら人権に関わる知識や価値・態度、技能を身に付けさせる。   | ・人権にかかわる知識や技能・態度は日常的に指導を行い、身に付けられるようにしている。下学年や障害のある人への接し方は意識しているが、同学年、クラスの友達に対して、厳しい言葉使いであったり、あたりが強かったりすることがあったので、引き続き人権にかかわる指導を行っていく必要がある。  | B  |  |
|      | ・異学年の縦割り班による「清掃・給食・遊び」活動を推進したり、のびっこ園台場保育園、幼稚園や近隣の八ツ山保育園との交流活動を行ったりして、自己有用感を高め育成する。                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において、活動が制限され、できる範囲での異学年交流となった。</li> <li>・6年生は、1年生との縦割り班清掃や牛乳パックのお手伝いなどで、高学年としての自覚と自信を高めることができた。</li> <li>・5年生が、1回であったが、台場幼稚園・台場保育園との交流をもたことで、高学年としての意識を高めた。</li> </ul> | A  |  |
| ③    | 自分からあいさつをしたり、場に応じたことばで受け答えしたりすることができる。   | ・児童はあいさつの大切さを理解し、朝正門などではすすんであいさつできる児童が増えてきた。一方、言葉遣いについては個々のひらきが見られる。   | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員間の相互評価に、「丁寧な言葉遣いをまず全教員で行うことによって、児童にとってよい手本を示していきたい」とあり、教職員間で共通実践に向け再確認を行った。</li> <li>・来客にすすんであいさつできる児童の育成に向け、まずは教職員が廊下等で児童にすれ違う際、一人一人とあいさつを交わし合うなど、日頃から全校であいさつを励行していく。</li> <li>・あいさつについても言葉遣いについても、指導の適時性が求められる。よい場合は具体的にほめ、残念な場合は具体的に指導していく。</li> </ul>              |
|      | ・教員が率先して、挨拶や丁寧な言葉遣いを意識する。  | ・おおむねできているが、今後も、教員の挨拶、適切な言葉遣いについては、努力していく必要がある。  | B  |  |
|      | ・全学年、あいさつ隊の活動を行ったり、委員会活動で児童が、自主的なあいさつ推進を行ったりする。  | ・人権委員や各学年のあいさつ隊はとても頑張っていたが、もっと、普段の生活に生かし、自主的なあいさつができるようにしていく必要がある。   | C  |  |

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目3 体力・健康に関すること

| 重点目標 |  | ○体育、健康教育全体計画に沿って、体育科における授業の充実を図る。<br>○個に応じたアレルギー対応を適切に行い、事故防止を遵守する。<br>○安全指導計画に沿って、校内外の生活、交通安全や災害、不審者対応など様々な危機を想定しての安全指導や体験的な訓練を行い、生命を守ろうとする態度や知識、技能を身に付けさせる。 |    |   |
|------|--|---|----|---|
| 評価指標 | 最上段:成果指標   | 最上段:成果指標の達成状況の説明  | 評価 | 今後の課題と改善策   |
|      | 2段目以降:取組指標   | 2段目以降:取組指標の達成状況の説明  |    |   |
| ①    | 「交通に関する事故件数0件」を目指す。  | 令和3年度における交通に関する事故は0件であった。   | A  | ・子どもたちの安全に向け、ヘルメット着用について校区教育協働委員会においても度々話題にあがり、その必要性、100%の着用に向け協議を重ねてきた。<br>・2学期始め実施する児童のヘルメット着用調査の結果を保護者に紙面で報告するなどして、確実な実施に向け、重ねてその必要性を啓発していく。   |
|      | ・安全指導で、交通安全教育を徹底し、交通ルールを守らせるとともに、ヘルメットの使用率を高める。  | ・児童のアンケートの中で、ほとんどの児童がヘルメットの使用はしていたが、使用しない時があったという回答もあった。ヘルメット着用率100%にはなっていないので、引き続き指導をしていく必要がある。  | B  |   |
| ②    | 都の体力調査の各種目の平均を上回る。   | ・学校全体の特長として見てみると、1・2年の男子を除いて、50m走が上回った。   | B  | ・今後身に付けさせる課題を明確にしたうえで取り組み、一人一人の児童が着実に記録を伸ばせるよう調査結果を生かしていく必要がある。<br>・年間計画に位置付けた取組を計画的に実施し、各取組の意義を意識させながら体育的活動を行うことが肝要である。<br>・日頃の体育学習においても、適切な運動量を確保していく。そのためにも、テクニカル・アドバイザーを意図的・計画的に活用し、児童によって意欲がさらに高まる授業を工夫していくことが大切である。 |
|      | ・一校一取組の「マラソン週間(学期1回)」「なわとび週間(学期1回)」「チャレンジジャンプ(月1回)」「体力向上週間(6月)」において、自己目標・学級目標を設定しその達成への取組を継続し、児童のバランスの取れた体力の育成を図る。 | ・コロナによる活動制限で、できることを、できる範囲で、工夫して実施した。通常のチャレンジジャンプはできなかったでの、各クラスで体育の時に取り組んだ。短縄跳び、長縄跳びなど、目標をもち、意欲的に行っている子が多くいた。  | B  |   |
|      | ・東京都体力向上調査結果を分析、評価し、指導の重点や授業の改善を明らかにし、特に、体づくりの運動や水泳領域等の体育実技研修を開催し指導の充実を図る。   | ・体づくりの運動については小体研の指導内容の周知があったため、指導の充実にはつながった。<br>・児童一人一人が体力調査の結果から自分の得意不得意項目が分かる取り組みができた。これを継続し、全校で取り組んでいきたい。<br>・水泳指導は、昨年度に引き続き、本年度も実施できなかった。                 | A  |   |
| ③    | 食物アレルギー事故ゼロとする。  | 令和3年度における食物アレルギー事故は0件であった。  | A  | ・年度初めの教職員研修では、DVDを活用してアレルギー対応の流れを確認した。また、アレルギー対応を要する児童の確認を全教職員で確認し、エピソードレナーを活用し、その使用方法の研修を行った。それらを通して教職員の食物アレルギーに関する意識が高まったので、今後も実態に即して必要な対応を講じていく。   |
|      | ・児童のアレルギー疾患に関する知識を深める研修および「食物アレルギー対応の手引き」に関する実践的な研修や事故発生時のシミュレーション研修を行う。   | ・年度初めにシミュレーション研修も行き、教職員にエピソードレナーの使用の確認や食物アレルギー対応児童の確認を行った。  | A  |   |
|      | ・個に応じたアレルギー対応を適切に行い、事故防止を遵守する。   | ・アレルギーがある子への対応は適切にできた。<br>・教員だけでなく、学級児童にもアレルギーのことについて指導して理解させ、気をつけさせることができた。<br>・毎日の給食の前に必ずアレルギーチェック表の確認をし、事故防止に努めた。  | A  |   |

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和3年度 学校評価 品川区立台場小学校

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

| 重点目標 |  | ○「いじめ」という人権侵害の防止を徹底し、差異を認め合える人権教育を推進する。<br>○いじめの早期発見や早期対応、解決に努める。<br>○保護者、家庭と連携を密にするとともに、教育委員会や地域、関係諸機関とも協同して解決にあたる。                             |    |  |
|------|--|--|----|--|
| 評価指標 | 最上段:成果指標   | 最上段:成果指標の達成状況の説明   | 評価 | 今後の課題と改善策  |
|      | 2段目以降:取組指標   | 2段目以降:取組指標の達成状況の説明   |    |  |
| ①    | 本校テーマ「自分も大事、友達も大事、認め合い」を大切に言動が100%の児童に浸透している。                              | ・100%の真の達成に向け、引き続き研鑽を深め、実践に励んでいく必要がある。   | B  | ・まず教職員が範を示していく。本区では「さん」付けの呼称が徹底されている。そこで、本校においても等しく児童を大切にしている表れの一つとして、まず教職員が徹底を図り、児童にも指導し、「さん」付けの呼称について取り組ませていく。   |
|      | ・月1回「人権DAY」では、人権感覚を育てる指導や活動を行う。  | ・「人権DAY」には、人権についての話題を取り上げたり、指導を行ったりした。人権デーの取組が、より効果的になるよう、具体的な指導内容の提案をする必要がある。   | B  |  |
| ②    | 生活アンケートでの「学校が楽しい」「友達となかよくしている」と回答する児童90%以上とする。                             | ・二つの学年が両項目とも90%を達した。   | B  | ・面談については、6学年の三者面談が位置付けられており、実施している。他学年においては保護者の要望に応じて、また、学校からの提案で実施している。今後、多くの家庭とよりよい連携を図るため、全学年の面談を年間予定に位置付けていくことも検討していく。                                       |
|      | ・アンケートなどの結果に迅速に対応し、児童との面談を通して早期発見に努める。<br>・児童の課題や悩み、保護者の相談に真摯に対応し、問題を解決する。 | ・今年度は生活アンケートの他に、長期休業中前後にも実施したアンケートがあったが、その都度気になる案件については各担任が個別に丁寧に対応した。<br>・児童との面談を通して、聞き取りを行なっている。アンケート調査にかかわらず、日常的に気になる児童がいた場合、聞き取りを行い早期発見に努めた。 | A  |  |
|      | ・教職員が協力して問題解決にあたり、児童理解を深めたりする研修をしている。                                      | ・担任だけでなく、副担任や特別支援コーディネーター等、多くの教員が組織的に、協力・連携して問題解決に取り組んだ。   | A  |  |
| ③    | いじめの早期発見、未然防止に努め、いじめゼロを目指し、適切に組織的に対応する。                                    | 令和3年度におけるいじめに関する報告は0件であった。   | B  | ・日頃よりポイントを押さえて児童を観察し、気になったことは迅速に学年・副担任等で共有、管理職に報告し、生活指導連絡会等を通して全教職員で共通理解を図り、外部機関を有効に活用しながら組織的に対応していく。<br>・得た情報について共通理解を図り、また、次年度以降生かせるよう、生活指導引継ぎファイルに記録することを努める。 |
|      | ・毎週金曜日放課後、生活指導連絡会を行い、児童の様子の情報交換を行い、共通理解する。                                 | ・生活指導連絡会に加え、学年会において共通理解を図った事項について、生活指導引継ぎファイルに記録することによって、年度や担任が変わっても、児童に関する情報が指導等に生かせる組織づくりを目指した。しかし、すべての情報を記録、引き継いでいるとは言えない。                    | B  |  |

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 (コロナウイルス感染症対策に関すること)

| 重点目標 |   | <p>○一人一人の感染予防に関する行動が、自分の命を、家族を、社会を守ることに繋がることを理解できるようにする。</p> <p>○手洗いや咳エチケット、換気といった基本的な感染症対策に加え、「3つの密」を避けるために身体的距離を確保(ソーシャルディスタンス)など学校内外において徹底できるようにする。</p>                   |    |   |
|------|---|--|----|---|
| 評価指標 | 最上段:成果指標  | 最上段:成果指標の達成状況の説明   | 評価 | 今後の課題と改善策   |
|      | 2段目以降:取組指標  | 2段目以降:取組指標の達成状況の説明   |    |   |
| ①    | 学校生活における感染症予防対策を浸透させる。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・登校→検温→手洗いの流れ、および、健康観察表の記入・提出など、一連の感染症予防対策が身に付いている。</li> </ul>  | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスク着用や手洗い、手指消毒など社会生活と同様の行動様式がしっかり身に付いているので、引き続き取り組んでいく。</li> <li>・健康観察表を日々忘れてしまう児童の数が以前に比べ減少したものの、依然一定数存在する。そこで、保護者への協力要請を今後も行っていく必要がある。</li> </ul>                               |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いや消毒などコロナウイルス感染症対策の大切さについて、児童が理解し、実践することができるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・登校→検温→手洗いの流れができています。油断なく引き続き取り組んで行くようにしたい。</li> <li>・検温忘れの常連があり、そういった家庭に対してさらに協力の要請が必要。</li> </ul>                                   | A  |   |
| ②    | 学習場面、生活場面における対策を講じる。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習場面で教員が密にならないよう指導しているため、教員がいない場面でも距離に気を付けて活動できる場面が増した。</li> </ul>   | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育や休み時間にマスクを外すことが、新しい生活様式として加わったため、マスクを外しているときに会話をしないことを今後も徹底していく。</li> <li>・休み時間の遊ぶ場所の分散化についても、引き続き配慮していく。</li> <li>・児童・教職員の健康管理に向け、基本的な感染防止対策をアップデートしながら継続して取り組んでいく。</li> </ul> |
|      | 教室におけるソーシャルディスタンスの確保などをしっかりと行う。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ソーシャルディスタンス」の徹底を指導しているが、休み時間には保てない児童もいた。</li> <li>・タブレットや飛沫防止パネルを使って、話し合い活動を工夫した。</li> </ul>  | A  |   |
|      | 登校時や休み時間の児童の密を避けるように時間や場所を考慮するなどの対策を進める。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間の遊び場所を学年毎に分け、密を避けた。</li> <li>・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が解除されているときの、休み時間は児童同士でじゃれ合うことがあったので、状況に応じ、今後も声掛けを行い、ソーシャルディスタンスを意識させる。</li> </ul> | A  |   |

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成